令和5年度 シラバス

| | 教和 | 抖 | 理科 | 科目 | 生物 | 学 年 | 第3学年 | 学類 | 科 型 | 普通科理系 |
|---|--|---|------|-----|----------|-------|------|------|--------|-------|
| Ī | 単位数 | 汝 | 4 単位 | 教科書 | 改訂版 生物(数 | 汝研出版) | | | | |
| | 生物実験ノート・問題集(愛媛県高等学校教育研究会理科部会生物部門) 副教材 十訂版スクエア、最新図説生物neo(第一学習社)、四訂版リードα(数研出版) チェック&演習(数研出版) | | | | | | | 开出版) | | |

学習目標

生物基礎の内容を踏まえて、物質と代謝や遺伝現象との関わりについて学び、そこから生殖と発生、環境への応答につなげます。さらには生物の進化と系統や生態系にも目を向け、生物の分類や生物どうしのつながりについても広く学習します。また、生物や生物現象に対する探究心を高め、観察や実験などを行い、生物学的に探究する能力と態度を身に付けるとともに、生物に対する科学的な見方や考え方を高いレベルで養うことを目標とします。

キャリア 教育の視点 学習内容と産業や技術とのつながりが強いこともあるので、教科書や図説の内容だけではなく、書籍やインターネット等を活用してデータを収集したり、科学の原理や産業への応用などについて調べたりして、理系の進路に対応します。

| | | 学習計画及び内容 | | | | 考査 |
|-------------------|-------|----------|------|-----------------|--------------|------------------------------|
| | 4月 | 第3章 | 第3節 | 遺伝子の発現調節 | 遺伝子の発現調節やバ | , <u> </u> |
| | - J.J | N1 0 4 | | バイオテクノロジー | イオテクノロジーについ | |
| | 5月 | 第4章 | 第1節 | 遺伝子と染色体 | て詳しく学び、遺伝子の | 中間考査 |
| | 0 /1 | 777 4 | 第2節 | 減数分裂 | 分配や発生過程から多様 | 门间行五 |
| 1 | | | | 遺伝子の多様な組み合わせ | 化につながる流れを詳し | |
| 1 | 6月 | | | 動物の配偶子形成と受精 | く学習します。 | |
| 学 | 0)1 | | | 初期発生の過程 | | |
| , | | | 第6節 | 細胞の分化 第7節 植物の発生 | | 期末考査 |
| 期 | 7月 | 第5章 | | ニューロンとその興奮 | 動物や植物における刺 |)yı/\.'.\ <u>1</u> <u>च.</u> |
| 791 | • /1 | 770 — | | 刺激の受容 | 激の受容や反応の仕方を | |
| | | | | 情報の統合 | 詳しく学び、生物の応答 | |
| | | | | 刺激への反応 | の様子を理解します。 | |
| | | | | 動物の行動 | 12/1/1/2/2/1 | |
| | 8月 | 第6章 | | 植物の反応 | | |
| | 9月 | , | | 成長の調節 | | |
| | 10月 | | | 花芽形成と発芽の調節 | | |
| | | 第7章 | | 個体群 | 個体群や生物群集につ | |
| 2 | 11月 | | 第2節 | 個体群内の個体間の関係 | いての学習を進め、生物 | 中間考査 |
| 27.6 | | | | 異種個体群間の関係 | 多様性における共通点や | |
| 学 | 12月 | | 第4節 | 生物群集 | 相違点を理解します。 | |
| 11- 11 | | | 第5節 | 生態系における物質計算 | | 期末考査 |
| 期 | | | 第6節 | 生態系と生物多様性 | | |
| | | 第8章 | | 生命の起源 | 地球誕生から現在に至 | |
| | | | | 生物の変遷 | る生物の進化について学 | |
| | | | 第3節 | 進化のしくみ | びます。 | |
| 3 | 1月 | 第9章 | 生物の常 | 学習のまとめ | | |
| 学 | 2月 | | | | | |
| 期 | 3月 | | | | | |

学 授業で教科書の内容を理解し、その後実験を行ったり図表を活用したりすることによって、自分の 習 目で見て確認してください。また、一人一台端末を利用して図や表におけるポイントを解説します。 の 各自復習に使い、知識を深めて下さい。

方 生物は暗記だけでは理解できません。前後の関連を意識し、問題演習を重ねることによって知識の 法 定着を図ってください。

| 正期考査の得点と平常点で算出します。平常点は、実験レポート・課題・小テスト・ノート及び授 | 価 | 業に取り組む姿勢などを考慮して評価します。

()

仕方

備考